

総論

技術継承の条件

ふじた しょういち
藤田 昌一

(株)東京設計事務所技術相談室
長岡技術科学大学客員教授

1 伝承と継承

「技術伝承」と「技術継承」はどう違うのだろうか？
「技術伝承」とはコツとかノウハウを伝えることで、これは「技能」の分野での言葉のように思う。一方「技術継承」とは、定量化や標準化によって伝えられるものなので「技術」については「継承」というのがふさわしいと思う。

フィギュアスケートの4回転半とか、ピアノの超絶技巧などの「伝承」は難しい。超有名人の絶妙で芸術的なワザなどは「余人を持って代えがたい」ということになって「名選手とか名演奏家」という名前だけが残り、そのワザは「伝承」されずにビデオ映像のみが歴史的資産となるほかはない(図-1)。



図-1 超絶技巧の伝承は難しい

ところが、私たちの世界ではそんな名人芸の「伝承」を期待してはいない。ごく普通に習えばだんだんと習得

できるふつうの技術の「継承」である。「継承」しているうちに個人個人のプラスアルファがついてきて「継承」しがたい「名人芸」という「伝承」の域に達することもありうる。

「技術の継承」というテーマは、これまでに「下水道協会誌」でも「月刊下水道」でも、その他様々な新聞雑誌メディアで取り上げられている。インターネットで「技術の継承」と検索すると関連する記事がぞろぞろ出てくる。おそらく世界中の様々な分野での人類永遠の課題であろう。

2 技術継承の大前提

さて、まずその大前提であるが、技術が継承されていくためには受け取る側が学ぶ気持ちになってくれなければ話は進まない。

例えば小さな子どもに片手で卵を割って見せる。「へーっ、すごい」というレベルにはすぐ到達できる。しかし、その後「じゃあ、自分もやってみよう。どうやって割るの?」という反応があれば、ここでもう技術の継承は95%以上完了である。技術を自分のものとして考えるかどうかは技術継承の分かれ目である。片手で卵を割るのを見て「ふーん」といって立ち去る子どもを呼び止めて無理矢理教えようとしているのが、昨今の技術継承の姿なのではなかろうか(図-2)。



図-2 片手で卵が割れます

大事な話の後で何も質問が出ない、という場面がある。これは聞いているほうが「ヒトゴト」だと思っている証拠である。これでは技術というバトンは、受けとってもらえない。そこで、バトンを受けとって走り続けてもらうためにはいくつかの工夫がいる。

3 技術継承の工夫

それは(1)面白いこと(2)切迫していること(3)利益があること、の3点である。大前提がない場合、このうちのいずれかひとつに該当しなければ「技術継承」は成り立たない。

(1) 面白いと思わないと伝わらない

卵を割る時、ふつうは片手に持った卵をとんと叩いて割れ目を作って、もう片方の手を添えて両手で割るのが安全確実な方法である。その手続を全部片手で済ます手首と指の絶妙な動きを見てとって、珍しい景色、面白いやり方だと思う感受性がないと「自分でもやってみよう」という気にならない。

そこで、「面白く見せよう」と工夫することが教える側に求められる。大学では「ファカルティ・ディベロップメント」などと称して、面白く楽しくわかりやすく授業をするように教授たちが一生懸命工夫をしている。

(2) 必要に迫られないと伝わらない

例えば料理のプロがたくさん卵料理を作らなければならない時、ていねいに両手を使っているヒマはない。片っぱしから片手で済ませて、空いているもう片方の手はナベをかき回しているかもしれない。片手割りはプロの必

須技術なのだ。

そこでオン・ザ・ジョブ・トレーニングとなる。仕事を進めるために心得ておかねばならない知識や技術はしぶしぶやむを得ず習得することになる。つまりこれが業務経験を積むことによる技術の継承である。切迫した事態にならないと技術が継承されない。

(3) 利益がないと伝わらない

先輩の技術を受け継げば、いつの日にか地位と収入が向上する、という仕組みがあれば話が早い。多くの人は富貴権勢を望むからそこに目をつけるのも戦術のひとつである。相撲のようなスポーツにはこの仕組が機能している(図-3)。

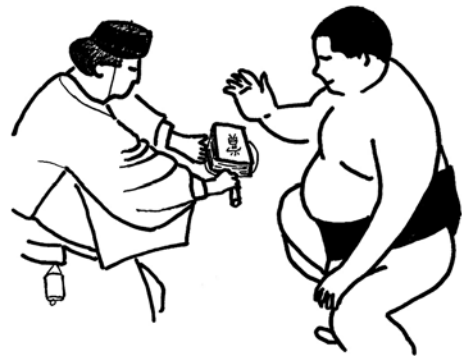


図-3 技術の向上が収入の増加になる

技術向上 → 地位の向上 → 名声の獲得 → 収入の増加 → 後世に名を残す、というルートである。

昔はスポーツ以外でも、しかるべき一人前と認められれば「暖簾分け」「親方の仲間に入る」「襲名披露する」というルートが確立していた。

だが今では、会社など組織の中で仕事をすることが多いので「技術力の向上」が必ずしも地位と収入に直結していない。その点、技術の分野では組織の中にも「技術士」「建築士」「測量士」「土木施工管理技士」「コンクリート診断士」などの資格制度は、技術の向上が地位と収入にリンクしている。資格制度はその点で有効である。

以上にあげた「面白い」「切迫」「利益」のうち、どれかひとつでもあてはまれば技術継承が可能となる。

どれが一番有力かはケースバイケースであるから、とりあえずあらゆる手立てを講じてこの豪華3点セットを取